

お医者さんに聞きました!

唐津の「心臓」を守り、健やかな未来を支える 循環器内科の新体制と 専門外来のご紹介

—はじめに—

唐津の皆様の「心」を支えるために

私は2025年4月に当院に着任いたしました。それまでは産業医科大学、佐賀大学、スタンフォード大学(米国)などで、心エコーや心臓の血管に対するカテーテル治療や教育・研究に携わってまいりました。私たちの使命は、唐津・玄海地区というこの素晴らしい地域の皆様が、心臓や血管の病気に怯えることなく、安心して暮らせる医療体制を築くことであり、初心に振り返って頑張っていく所存です。

唐津赤十字病院
副院長兼循環器内科部長

園田 信成

TAKE  FREE

ご自由にお持ちください

「24時間365日」断らない 医療を提供する

心臓の病気は1分1秒を争うことが少なくありません。そこで当院では、2025年4月より、循環器内科の体制を大幅に強化いたしました。

現在は、佐賀大学や九州大学からの専門スタッフを含む医師6名体制で診療にあたっています。これにより、深夜や休日を問わず、24時間365日いつでも急患を受け入れ、迅速に高度な治療を行える体制が整いました。また、最新の心血管造影装置を導入したことで、より体への負担が少なく、精密な診断と治療が可能になっています。

高度な診断と「専門外来」の充実

昨年の体制刷新に伴い、希少な病気の早期発見や、皆様の生活に身近な問題を解決するための機能を拡充いたしました。

▶ 希少疾患の早期発見：ピロリン酸心筋シンチグラフィの導入

近年、高齢の方の心不全の原因として注目されている「心アミロイドーシス」という病気があります。これは心臓に特殊なたんぱく質が蓄積し、心臓の動きが悪くなる病気です。当院ではこの診断に不可欠な「ピロリン酸心筋シンチグラフィ」という最新の検査を導入いたしました。これまで診断が難しかった希少な病気に対しても、当院でしっかりと対応できる体制を整えています。

▶ 睡眠時無呼吸症候群(SAS)外来(2025年7月開設)

「いびきがひどい」「日中に強い眠気がある」といった症状は、実は高血圧や心不全の大きな引き金になります。当院ではSAS簡易検査だけでなく、市内初となる「精密型」の入院検査機器を導入し、一晩の入院でより詳しく眠りの質を調べることで、最適な治療を提供しています。

▶ 心臓血管外科との連携と足の血管治療(EVT)

2025年5月からは心臓血管外科外来も新たに開設され、内科と外科が一体となった「チーム医療」を実現しています。

また、歩くと足が痛むといった症状が出る「足の血管の詰まり」に対しても、他科と協力して「足を切断から守る」高度なカテーテル治療(EVT)に力を入れています。

これからの抱負 患者さんの心に寄り添う医療を

唐津地区は高齢化が進んでおり、生活習慣を背景とした心疾患のリスクが高い傾向にあります。しかし、真面目で我慢強い方が多く、受診を控えてしまうケースも見受けられます。我々の抱負は、単に「病気を治す」ことだけではありません。

第一に、「患者さん一人ひとりに寄り添った医療」です。最新技術を駆使するのはもちろんですが、何よりも患者さんが不安を感じないよう、安全で安心できる医療を徹底してまいります。

第二に、「持続可能な地域医療の発展」です。若手医師の育成に情熱を注ぎ、地域の先生方との連携をさらに強めることで、この唐津の地でいつまでも質の高い医療を受け続けられる仕組みを守っていきます。

－おわりに－

我慢せず、まずはご相談ください

心臓の不安は、そのまま生活の不安につながります。階段で息が切れる、胸が締め付けられる、あるいはひどいびきなど、気になることがあれば決して我慢しないで、早めにご相談ください。

私たちは、皆様の大切な「心臓」と「健やかな生活」を守るため、全力を尽くしてまいります。どうぞお気軽に、唐津赤十字病院 循環器内科へご相談ください。

プロフィール

profile

副院長兼循環器内科部長

園田 信成

- H3 産業医科大学 卒業
- ◎産業医学基本講座修了(産業医資格取得)
- ◎日本循環器学会 専門医
- ◎日本内科学会 認定医・指導医
- ◎日本心血管インターベンション治療学会 専門医・指導医・学術委員
- ◎日本心血管インターベンション治療学会 学術誌編集委員(Associate editor)
- ◎日本心臓病学会 心臓病上級臨床医(FJCC)
- ◎日本老年医学会 老年科専門医
- ◎日本心血管画像動態学会 理事
- ◎日本高血圧学会会員 ◎日本臨床生理学会会員
- ◎佐賀大学医学部循環器内科 臨床教授
- ◎横浜市立大学医学部循環器内科 客員教授
- ◎日本循環器学会 社員・評議員・フェロー(FJCS)
- ◎Asian Pacific Society of Cardiology Fellow(APSC)
- ◎医学博士





職員特集

いざという時に備える、 訓練に向き合う職員の思い



災害救護の訓練などに参加しようとしたきっかけは？

A 医療に関わる中で、日常の医療だけでは対応しきれない場面があると感じ、災害時に自分に何ができるのを知りたいと思ったことがきっかけです。入社直後の訓練では「いざという時に何もできない怖さ」を実感し、学ぶことから始めたいと思い、参加するようになりました。

普段の医療現場で活かされているものはありますか？

A 限られた状況で優先順位を考え、周囲と連携して動く意識は、日常の医療現場でも生きています。また、患者さんの目線で分かりやすく説明することや、生活背景を踏まえて考える視点も身につきました。訓練の経験を活かして、今ある環境で何ができるかを意識して行動しています。



訓練で得られた学びや気づきがありますか？

A これまでの訓練を通して、「生活をどう維持するか」の重要性を実感しました。北海道の厳冬期訓練では、寒さだけでなく、夜間に雪の中でトイレへ行く大変さや水が使えない不便さを経験しました。「災害時に、いかに日常に近い生活を維持できるかを考えること」が大切だと、訓練に参加する度に感じています。



災害救護に関心を持っている方へ

A まだ経験は浅いですが、訓練を通して現場ごとに求められる対応が異なることを実感しています。だからこそ、少しでも興味がある段階でも、一歩踏み出すことで自分にできることが見えてくると思います。無理のない形でもこれから関わってみよう!と思う人が増えれば嬉しいです。



災害はいつ起こるかわかりません。日本赤十字社では、その「もしも」に備えた訓練や取り組みが日々行われています。今回は、継続して訓練に参加している職員に、その思いや取り組みについてお話を伺いました。



PROFILE

診療放射線技師
寿福院 志帆

R3 純真学園大学 卒業

【参加した訓練等】

- ◎AED研修会 ◎原子力災害医療基礎研修
- ◎甲状腺簡易計測研修会 ◎原子力災害訓練
- ◎原子力災害医療中核人材研修
- ◎佐賀県支部常備救護班要員研修
- ◎災害医療受援研修 ◎県DMAT研修
- ◎厳冬期避難所展開・宿泊演習



サンリオ様からの心あたたまる贈り物



株式会社サンリオ様より「Sanrio Nakayoku Project(世界中に笑顔をお届けする社会貢献活動)」の一環として、サンリオキャラクターがデザインされた文具セットを全国の赤十字病院へご寄贈いただきました。

当院にも文具セットが届き、小児科に入院されている患者さんへお渡ししております。ぬりえ付きのノートやキャラクターが描かれたクレヨン、かわいいシールやエコバッグなどのプレゼントに、小児患者さんはもちろん、保護者の方にも大変喜ばれています。

また、昨年9月には車いすもご寄贈いただき、贈呈式を行いました。式には、ハローキティも登場し、院長・看護部長が直接車いすを受け取りました。

さらに、式の終了後にはキティちゃんが小児科病棟を訪問され、かわいいプレゼントとたくさんの笑顔をお届けくださいました。ご寄贈いただいた車いすは、現在、小児科病棟の子どもたちに大切に使用させていただいております。

入院生活の中で、子どもたちにとって笑顔のきっかけとなっており、職員一同、大変嬉しく感じております。

このたびは、心温まるご支援をいただき、誠にありがとうございました。



お知らせ

相談窓口 患者サポートセンター | がん相談支援センター | 脳卒中相談窓口 のご案内

療養や生活上の不安、社会福祉制度の利用、がんに関することなどの相談窓口を設置しています。お気軽にご相談ください。(相談は無料です)

◆唐津赤十字病院 1階8番窓口 [患者サポートセンター／がん相談支援センター]

TEL0955-74-9135 [直通] 受付時間9:00～16:00 [土・日・祝日を除く]



基本理念

- 安心な医療
- あたたかい看護
- 地域への貢献

基本方針

- 患者さんの人権を尊重します。
- 救急医療やがん医療の充実に努めます。
- 災害救護に貢献します。
- 地域小児・周産期医療の維持・確保に努めます。
- 質の高い医療と看護を提供します。
- 地域医療連携を推進します。
- 健全で安定した経営基盤を確立します。

 唐津赤十字病院

日本赤十字社



唐津赤十字病院

検索